

新型コロナウイルスに係る医療提供体制の確保に關しまして、大和市立病院は神奈川県に協力し、地域において重要な役割を担っております。新型コロナウイルスの感染が県内で確認されて以降、帰国者・接触者外来を設置し、発熱等の症状のある患者や保健所から紹介された濃厚接触者へのウイルス検査を数多く実施しているとともに、他の医療機関と連携し、多くの感染患者の治療にも取り組んでいるところでございます。今後、徹底した感染対策の下、引き続き救急医療やがん治療なども行い、地域の基幹病院として、市民の皆様から信頼



集団接種会場の模擬訓練

種に別動隊による接種を加えた大和市独自のモデルで実施してまいります。集団接種を行う本隊とは別に組織された別動隊は、対象や日程を限定しながら、特に必要と思われる場所において接種を行えるよう調整を進めているところであります。今後、ワクチンが供給され次第、「大和モデル」による接種を速やかに実施してまいります。

令和元年10月に「こもりびと支援窓口」を設置してから約1年半が経過し、令和3年1月末時点で134人から延べ603件の相談を受けました。専任

さらには、9月の自殺予防週間と3月の自殺対策強化月間において、大和市内から大手検索サイトを利用して自殺に關連するインターネット検索が行われた際、検索結果の画面に相談窓口等の連絡先も表示される仕組みを導入いたします。このような新たな方策も取り入れながら、自殺を考えている方に対して思い悩んでいる状況から抜け出すための様々なきっかけを提供できるように努めてまいります。

令和3年度は、一人ひとりが「こもりびと」で悩まない、誰もが安心して暮らせるまちを目指してまいります。

2 一人ひとりがささえの手を実感できるまち

全国的に高齢化が進み、団塊の世代が75歳以上となる令和7年には、65歳以上の方のうち約5人に1人が認知症になるとの推計もある中、本市では認

の「こもりびとコーディネーター」を中心とする丁寧な対応を実施している中、家族間のコミュニケーションが緩やかに回復することや就労により再び社会とつながりを持つことができた事例もあり、こもりびとの方に寄り添うことを心掛けた支援が着実に実を結んでいると実感しております。また、大和市から生まれた「こもりびと」という呼称については、昨年の11月、こもりびとという表現をそのまま冠したドラママガNHKで放送されるなど、全国に広がっております。昨年には、悩みの共有を通してお互いの孤立感を軽減し、今後の社会参加へと歩んでいく機会となるよう、こもりびと本人を対象とした「こもりびとの集い」とご家族を対象とした「家族の集い」を開催しました。新年度もそれぞれの集いを継続し、専門家などの協力も得ながら、より有意義な時間を提供できるように工夫してまいります。



認知症の総合相談窓口「認知症灯台」

また、特におひとりさまであるが故に、日常生活の中で何かと心配事や不安を抱える場面もあるかと思えます。そうした中でも、できる限り安心して毎日を暮らしていただけるよう、24時間365日、フリーダイヤルでご利用いただける、相談員が、医療、健康などに関する相談をお受けする「やまと24時間健康相談」を開設したほか、急病などにより救急車を呼んだ際、ひとり暮らしの方であっても、救急隊が持病やお薬、かかりつけの医療機関などの情報を迅速に捕捉できる「救急医療情報キット」の配布、80歳以上のひとり暮らしの方などに、ボタン一つで通報できる緊急通報用の機器等を貸与する「高齢者見

守りシステム」の導入など、皆様の命と健康を守るための環境を整備することにも注力してまいります。



救急医療情報キット

新年度はコロナ禍の影響により、本市の財政も他の自治体と同様、大変厳しい状況になることが見込まれており、



最初の基本目標は、「いつまでも元気でいられるまち」でございます。

1 いつまでも元気でいられるまち

市政運営の舵取りは例年になく難しいものになっていくことが想定されます。しかしながら、大和市政を預かる身として、眼前に立ちほだかる苦難に臆し、立ち止まっている暇はありません。現在、全世界が直面している新型コロナウイルスという大きな課題こそ、時々刻々と変化する局面に、最大のスピード感を持って挑まなければならないものです。新年度におきましても、24万市民の健康やかで康らかな生活を守り抜くため、「健康都市 やまと」の推進に全身全霊を傾けてまいります。